

(5) ^{かみやかみきりいせき}神谷上切遺跡

所在地 豊田市下山田代町神谷上切地内
(北緯 35 度 1 分 37 秒
東経 137 度 18 分 3 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業

調査期間 平成 30 年 1 月～平成 30 年 1 月

調査面積 46 m²

担当者 尾崎綾亮 岡田浩季

調査経過 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う記録保存発掘調査を愛知県企業庁より委託を受けて実施した。当初企業庁との契約面積は 150 m²であったが、企業庁から開発範囲の変更の申し入れがあった。したがって企業庁、愛知県教育委員会と協議を行い、調査対象面積を 46 m²とした。平成 25 年度にも遺跡の南端付近で調査を行っており、中世、近世の遺構、遺物を確認している。

立地と環境 本遺跡は郡界川の支流である田代川の西側丘陵部の南向き斜面地に位置する。調査前の状況は、山林であった。周辺の遺跡として、東方に神デン B 遺跡、日面遺跡（両遺跡ともに下山田代町に所在）がある。

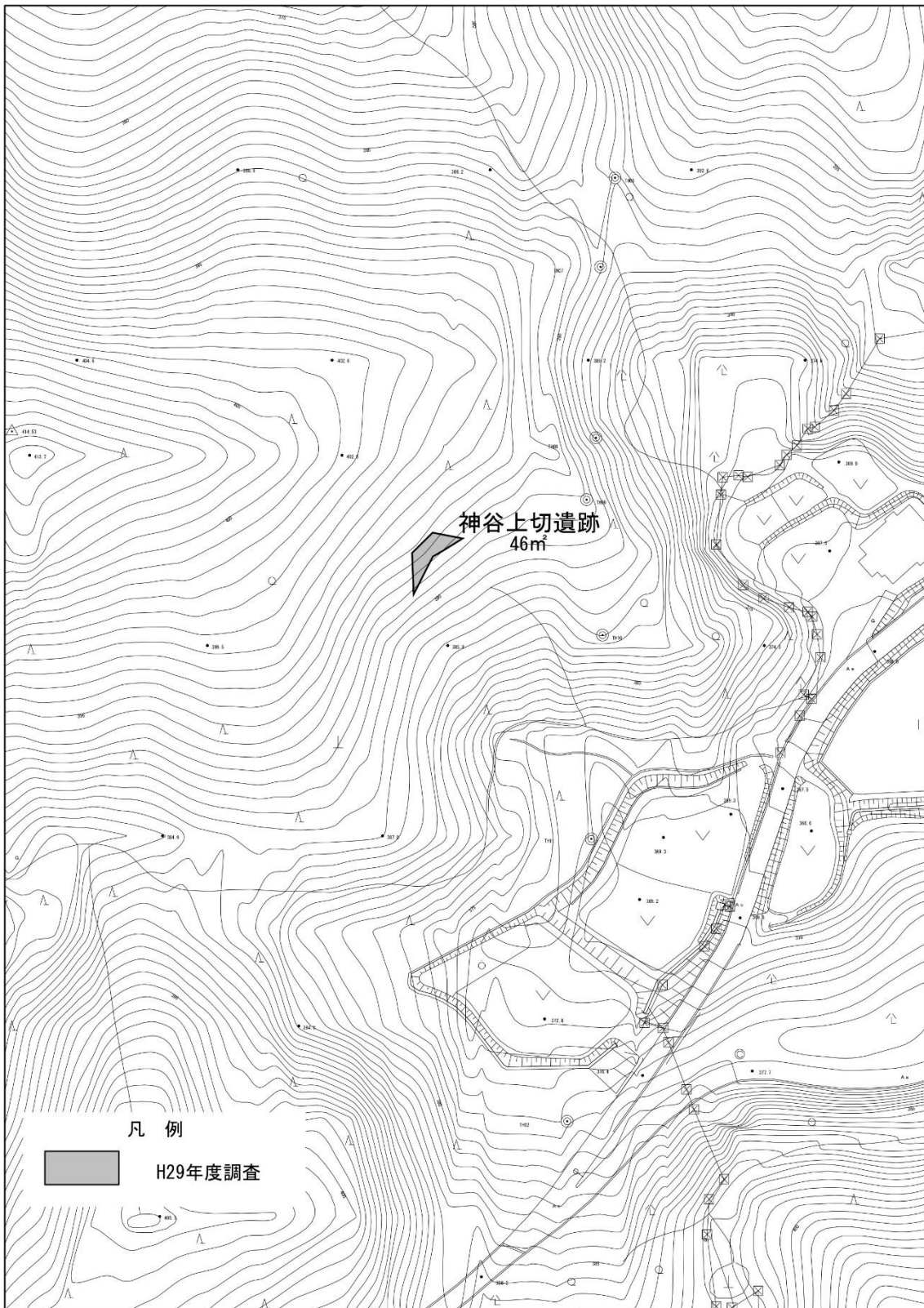
調査の概要 調査区中央に土層観察用のサブトレンチを設定し、斜面の堆積状況を確認しながら掘削を進めていった。表土除去後、地山面を検出し、この面で近代の炭焼窯（001SY）を検出した。

炭焼窯（001SY）は長軸 1.34m、短軸 1.13m（サブトレンチと重なっているため正確な規模は不明）、深さ 0.746m の遺構である。平面形は北側に向かってややすぼまっており、これが煙道部にあたる。埋土には焼土が混じり、側壁部のみ赤化していた。遺物を確認することはできなかった。

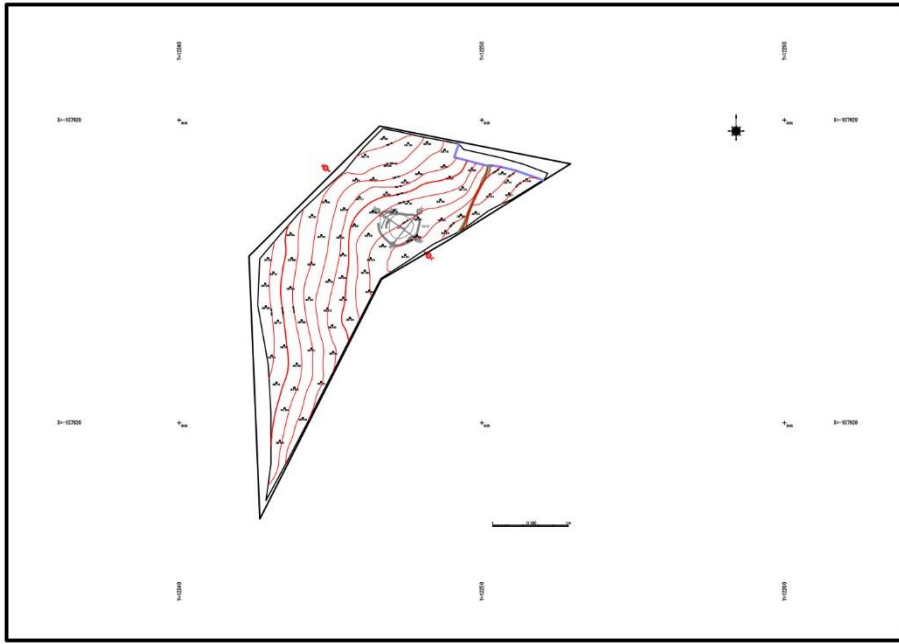
まとめ 今年度の調査の結果、遺跡の範囲の最も北にあたる部分では遺構、遺物ともに稀薄であることを確認することができた。平成 25 年の調査区での成果と合わせて遺跡の性格を考えていきたい。
(尾崎綾亮)



調査地点 (国土地理院 1/2.5 万地形図「東大沼」)



神谷上切遺跡位置図 (1:1,000)



調査区全体図（1:250）



神谷上切遺跡完掘状況写真



調査前の状況



炭焼窯 (001SY) 掘削状況 (西から)



炭焼窯 (001SY) 掘削状況 (南から)



炭焼窯 (001SY) 完掘状況